

ミカエラ・ウィルキンズ

(ほんとうにあった話をもとに書かれました)

このお話は、アメリカ合衆国での出来事です。

「神の子です」と、キャメロンはほかの初等協会の子供たちと歌いました。キャメロンは耳があまり聞こえないのですが、歌うのが大好きでした。そしてもうすぐ、みんなで初等協会のプログラムで歌うのです。あと1か月しかありません!

歌の時間が終わると、ジョーンズ姉妹があることを発表しました。「初等協会のピアニストがもうすぐ引っこしてしまいます。みなさんの何人かに、初等協会のプログラムでピアノをひいてもらいたいと思います。1、2曲ひきたい人はいますか。」

キャメロンが手をあげました。プログラムを手伝いたいと思ったのです。ジョーンズ姉妹は、手伝いたい子供たちの名前を書きとめました。エマ。ベン。そ



# ピアノひきの キャメロン

キャメロンはひき方を  
知りませんでした、  
手伝いたいと思  
いました。

れから、キャメロン! あなたがピアノをひけるなんて知らなかったわ。」そう言って、ジョーンズ姉妹はにっこりしました。

キャメロンはレッスンを受けたことはありませんでしたが、おばあちゃんの家のピアノで歌を作るのが好きでした。

「まだそんなに上手ではないです」とキャメロンは言いました。

「でも、練習すればできるとおもうす!」

「進んで奉仕してくれてありがとう」とジョーンズ姉妹は言いました。そして子供たち一人一人に、ばんそうする歌を2曲ずつわたしました。

キャメロンは廊下をダッシュしたい気分でした。ずっとひけるようになりたいと思っ  
ていて、ついに願いがかなうのです!

「うれしそうね。初等協会  
の後、車に乗りこみながらたずねました。」お母さんが

キャメロンはにっこり  
「初等協会のプログラムで  
ピアノをひくんだよ!」

「あなたが手伝いたいと思  
お母さんが言いました。「でも、それができるほどピアノのひき  
方をよく知らないんじゃないのかしら。」

キャメロンはせすじをのばして  
「ひけるようになるよ。すぐ一生懸命練習するから! おばあちゃんのピアノ  
を使えるから。」

「それなら、さっそく始めな  
「それなら、さっそく始めな  
ちゃんね!」とお母さんは言いま  
した。

お母さんに助けてもらい、  
キャメロンはピアノの先生を見つ  
「神殿に行きたい  
と「イエス・キリストの教会」  
の簡単なひき方を教えてくれま  
した。

キャメロンはおばあちゃん  
でできるだけひばんに練習しま  
した。一行ずつ、何度もくり返  
練習しました。たくさん間違いま  
したが、挑戦し続け、ひき続け  
ました。そしてついに、2曲とも  
ひけるようになりました。

それから間もなく、初等協  
プログラムの日になりました。「ど  
んな気分?」とお母さんがたず  
ねました。

キャメロンはピアノの本を  
「きんちょうしてる。でも、わくわくもしてる。」

自分がひく番になると、  
天のお父様、どうか助けてくだ  
息をすいこみました。そして、  
ほかの子供たちがピアノに合  
歌が終わると、キャメロンは  
す! せいいきが助けてくださ  
すでに1曲ひいたので、キャ  
指がけんばんの上を動きました。

この歌はキャメロンのお  
について考えました。「す  
キャメロンはプログラムの歌  
ました。

ピアノをひくことは、ほ  
なのかもしれない、とキャ  
プログラムの後、お母さん  
ました。

「どうだった?」とお母  
「最初はきんちょうしたけど、  
答



えました。練習を続け、  
もっとたくさん歌をひ  
けるようになりたいと思  
いました。●

あなたは何を学んで  
身につけたいですか?

イラスト: マリア・ローザ